

今後の富岳・HPCI について -利用裾野拡大・人材育成-
論点案

1. 利用裾野拡大

【現状】

- 利用者は増加傾向、一方で新たな利用（利用分野、利用形態等）が現時点で十分広がっているとは言い難い。

【今後の方向性（既存の取組に加えて実施すべき事柄）】

- 新たな分野（研究分野、産業分野）からの利用、新たな利用形態（AI、データ利用、実験施設連携等）での利用には、積極的な誘導が必要ではないか。

（例）

- データとシミュレーションの融合等、新たな利用形態を可能とする環境整備（HPCI 共通ストレージの高度化による他センター・施設とのシームレスなデータ利活用等）
- 公募における重点課題の設定
- 新規ユーザへの技術の提供（講習会等）、技術（既存ユーザ）とニーズ（新規ユーザ）のマッチングの場の設定
- 既存ユーザにも新規ユーザにも利用しやすい計算環境、利用制度の実現

（例）

- 計算環境の改善（「富岳」性能最適化：コンパイラ、ライブラリ、ファイルシステム等の改善等）
- 「富岳」・HPCI 第2階層の一体的な利用環境の実現（「富岳」・HPCI 共通でのベンチマークの実施・利用者への情報提供、国プロアプリの普及、商用、OSS アプリへの対応）
- クラウド的利用（まずは、計算実行環境の提供・サポート）の展開

(利用事例の広報、ユーザへの周知)

- 有償利用時の審査基準、情報公開事項の検討
- 既存ユーザにも新規ユーザにもアピールできる広報の実施

2. 人材育成

【現状】

- 新たなユーザの開拓に必要な、技術支援、講習会、PR 等が十分実施されているとは言い難い。
- HPCI で育成すべき具体的な人材像が必ずしも明確でない。
- そもそも情報科学人材が不足している。

【今後の方向性（既存の取組に加えて実施すべき事柄）】

- 育成すべき人材像の明確化

(例)

- ユーザ側（企業、大学等研究機関）：スパコンを使いこなせる人材
- システム側（ベンダー企業）：開発、製造、運用を担える人材
- システム側（大学等研究機関）：革新的なアーキテクチャ等の研究に取組む人材

- 各研究分野のコミュニティと連携した人材育成
- 産業界と連携したキャリアパスの構築
- 学生等対象のプログラムの実施

(例)

- 「富岳」成果創出加速プログラム実施課題や基盤センター等との連携による「企業連携型人材育成」
- 研究分野、属性（学术界と産業界等）を超えた人材交流
- 余裕計算資源を活用した「若手教育枠」の設定
- 中高生等対象プログラムの拡充（スーパーコン、スパコン体験塾、学校教育との連携）